

令和元年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

令和 元 年度の主な事業報告

社会福祉法人恵徳会

社会福祉事業

【社会福祉法人 恵徳会】

令和元年度、社会福祉法人恵徳会は、1. サービスの質の向上、2. 健全経営、3. 地域貢献、4. 人材育成と確保、5. 「中期ビジョン」の策定、6. 法人本部組織の機能強化及び内部体制の充実の6点を事業目標として取り組みを行った(各拠点については、1~4を事業目標とした)。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく令和元年度の事業について、次のとおり報告する。

1. サービスの質の向上

・令和元年度は、各拠点年間の研修計画通り研修を実施できたが、コロナウイルス感染防止措置のため、実施できなかった研修もあった。また、介護職員の負担軽減及び事故防止のための介護ロボット、記録システムの導入には至らなかった。

2. 健全経営

・利用者確保のため、新たに営業担当職員を配置し、通所介護並びに短期入所の利用状況等可視化のためのチラシ作成。糟屋郡域を中心として、病院や居宅介護支援事業所等への挨拶回りを実施した。また、養護老人ホーム双葉に関しては、定員割れや入所者の介護度が重度化している現状について、定期的に福岡県へ報告を行った。

3. 地域貢献

・須恵町地区では、定期的に地域のミニデイサービスに職員(PT、EPA 候補生等)を派遣し、介護予防を目的とした体操やレクリエーションを提供、地域との繋がりを図った。

・福岡市西区においては、近隣の公民館や施設内の地域交流室にて職員による出前授業を実施。また、西区ライフレスキュー事業においては、社協と共同事務局となっていることから、2ヵ月に一度の連絡会を開催したほか、セブンイレブンジャパンからの寄贈品(飲料・食料品)の受け入れを行い、子ども食堂及び老人クラブ等への提供の窓口を担った。子ども食堂関連で、子ども食堂への食材提供のため、毎週金曜日に JA 福重店へ出向き、野菜等の食材運搬を行った。

・太宰府市地区においては、あいさつ通りの清掃を利用者及び職員と定期的に行った。

・防災関連として、須恵町地区では地域の防災訓練に参加し、地域の避難所として受け入れを行った。太宰府地区では、地域との防災訓練は台風により中止となったが、大雨による住民の避難の受け入れを行った。

4. 人材育成と確保

・福岡県主催の「福祉のしごと就職フェア」や、各種団体主催の合同面談会等へ参加するも採用には至らなかった。

・西区で開講している「なの国ケアスクール」での実務者研修並びに初任者研修の受講に関して、職員割引を適用することで、法人職員の資格取得を支援した。

・各拠点で計画的に全職員研修や外部研修への参加を推進した一方、責任者に対する研修までは実施できなかった。

・EPA 候補生の受け入れのため、現地の合同面談会に参加し、1名の受け入れが決定した。

5. 「中期ビジョン」の策定

・銀行から当座貸越枠の利用と運営費の借入を行ったため、5年後からの健全運営に向けて

無理のない返済計画によりキャッシュを確保し、各事業所の事業計画遂行の支援を行った。

6. 法人事務局の機能強化及び内部体制の充実

- ・公認会計士の指導を仰ぎ、会計業務の適正な処理が行えるようになった。

[諸会議]

(1) 理事会

第1回 令和元年 6月10日	第1号議案	平成30年度予算超過について
	第2号議案	平成30年事業報告について
	第3号議案	平成30年度決算について
	第4号議案	平成30年度社会福祉充実額の算定結果について
	監事監査報告	監査報告について
	第5号議案	平成30年度第1回定例評議員会開催日時、提案議題について
	第6号議案	役員報酬規程の一部改正(案)について
第2回 令和元年 6月25日	第6号議案	理事長選任について
	第7号議案	業務執行理事選任について
第3回 令和元年 9月27日	第8号議案	令和元年度第1四半期報告について
	第9号議案	地域密着型老人福祉施設アネックス恵昭園及び恵昭園デイサービスの管理者選任について
	第10号議案	定款細則の一部改正(案)について
	第11号議案	稟議規程の制定(案)について
	第12号議案	諸規定の一部改正(案)について
	報告事項	令和元年度第1四半期報告
第4回 令和元年 12月21日	第13号議案	令和元年度第1次補正予算(案)について
	報告事項	令和元年度第2四半期報告
第5回 令和2年 2月28日	第14号議案	西日本シティ銀行からの運営資金150百万円借り入れの件
第6回 令和2年 3月25日	第15号議案	令和元年度第2次補正予算(案)について
	第16号議案	令和2年度事業計画(案)について
	第17号議案	令和2年度予算(案)について
	第18号議案	運営規程の一部改正(案)について
	第19号議案	預り金管理規定の一部改正について
	第20号議案	法人カード取扱規程(内規)の制定について
	第21号議案	利用契約書の一部改正(案)について
	第22号議案	特別養護老人ホームなどの国指導監査結果について
	報告事項	令和元年度第3四半期報告、恵昭園・若杉の里給食委託業者選定

(2) 評議員会

第1回定時 令和元年 6月25日	第1号議案	平成30年度予算超過について
	第2号議案	平成30年度決算について
	第3号議案	平成30年度社会福祉充実額の算定結果について
	監事監査報告	監査報告について
	第4号議案	理事選任について
	第5号議案	監事選任について
	第6号議案	役員報酬規程の一部改正について
	報告事項	平成30年事業報告について

(3) 監事監査

令和元年6月3日

(4) 運営会議

6回(5月、8月、9月、12月、2月、3月)

(5) 幹部職員会議

毎月1回(3月はコロナウイルス感染予防のため中止)

(6) 各種委員会

企画推進会議(3月は中止)

広報委員会(随時開催)

研修委員会(随時開催)

防災・防犯委員会(随時開催)

(7) 公認会計士による外部監査

令和元年5月20日~23日

令和元年8月20日~21日

令和元年11月25日~26日

令和2年2月27日~29日

【特別養護老人ホーム恵昭園】

1. 健全経営

・ 広報担当者を主に広報活動を行い、施設見学や各種相談に柔軟に対応した結果、医療機関から入所申し込みや入所に繋がるケースは増えたが、入所順位名簿に名前のある方の入所希望がなく、新規申込者からの入所が多かった。目標稼働 48 名で、実稼働は 42 名であった。

2. サービスの質の向上

- ・ 排泄や食事摂取記録についてはタブレットへ変更したが、24 時間シートは未導入。
- ・ 行事食終了後に利用者へアンケートを取り、結果を厨房と検討、希望の献立を提供した。
- ・ 利用者、ご家族へアンケート調査(サービス評価)を行い、その結果を元に対応を行った。
- ・ 新入所者の医療ニーズの高まりから、予測される課題を検討したうえで体制を整えた。
- ・ 看取りに関する研修への参加は出来なかった。
- ・ 褥瘡予防アセスメント評価(年 2 回)を実施し、ケアの統一を実施。退院時に褥瘡形成されていた利用者に関しても統一したケアを行い、褥瘡の完治に繋げることができた。
- ・ 新型コロナウイルスにより、マスクやアルコールの不足等、これまでにない状況が発生。
- ・ 入院を伴う事故が発生し、施設賠償保険により見舞金支払等の対応を行った。
- ・ 家族参加によるカンファレンスは未定着の方が多かった上に、感染症対策にて家族の面会自体を制限することとなった。家族や利用者の不安軽減のため、面会室での面会や、タブレットを使用したオンライン面会を実施したほか、近況報告と併せて写真をお送りした。
- ・ 居室床の張替工事を実施し、利用者の転倒予防に努めたほか、多床室であるが可能な限りのプライバシーの確保等環境整備に努めた。

3. 人材育成と確保

- ・ 介護保険制度等諸制度の動向について、随時関係職員へ周知を行った。また、新型コロナウイルス流行後は、国等からの通達について随時情報収集や周知を実施した。
- ・ 職員のスキルアップとして毎月内部研修を実施していたが、職員の参加率が悪く、資料の配布のみとなることも多かった。中堅職員への外部研修の参加は勧めることが出来なかった。
- ・ キャリアパス面談時に、職員へ次期目標を提示し、やりがいを持てるように努めた。

4. 地域貢献

- ・ 上須恵ミニデイサービスや上須恵祇園山笠へ参加した。
- ・ 7 月の大雨時、施設が避難場所となる可能性があったが、地域の方の避難はなかった。地区の防災訓練の際は、福祉避難所として訓練に参加したほか、行政主催の防災研修に参加した。

【恵昭園短期入所生活介護】

1. 健全経営

- ・ 固定利用者の利用中止(逝去や施設入所)による影響が大きく、大幅な稼働の減少があったが、新規利用者の受け入れを積極的に行い、定期的な利用に繋がったケースもあった。また、緊急的な長期利用を受け入れたほか、急な利用変更に関しても柔軟に対応を行った。介護予防や医療ニーズのある方の受け入れも可能な限り行うよう努めたが、利用希望があまりなかった。
- ・ 稼働率の低迷により、特養からの借入を実施し、収支のバランスを図った。

2. サービスの質の向上

- ・居宅ケアマネの情報を主軸とし、課題の発掘を行ったほか、家族からの相談時は各部署と情報共有を行い、チーム全体で課題の解決に努めた。
- ・通所介護と併せ在宅サービス版アンケートを実施、結果をも元にサービスの見直しを実施。
- ・担当者会議の際に得た、他事業所等の取組について、各部署へ発信した。
- ・初回利用の方は家族の協力も得ながら、利用者本人の精神的負担の緩和に努めたほか、趣味や嗜好を事前に把握し、自宅とのギャップを埋められるような環境づくりを行った。
- ・感染対策として、注意喚起の案内文書や発症時の対策について情報発信を行った。
- ・服薬事故は発生しなかったが、持参された薬の返却忘れが目立った。

3. 人材育成と確保

- ・職員人数の関係でフロア会議の開催が出来なかったため、フロアノートで情報共有を図り、課題の把握や解決に努めた。

4. 地域貢献

- ・家族アンケートにて、介助方法等の勉強会の実施について尋ねるも希望者は不在であった。
- ・ライフレスキュー連絡会に参加するも、サポーターとして支援に関わるケースはなかった。

【アネックス恵昭園】

1. 健全経営

- ・1年間で入居者6名、退去者7名となった。退去から新入居までの空床期間を短くするよう努めるも入居が追い付かず、年間平均入居者は15~17名となった。特に、令和元年度は開設時から入居されていた方の退去が目立った。年度末は、感染症対策から、医療機関等への入所前面談が出来ないケースもあった。

- ・広報担当職員との情報交換にて、紹介から申し込み、早期入所に繋がったケースがあったほか、これまで関係のなかった近隣以外の医療機関と新たな関係性を構築することが出来た。

2. サービスの質の向上

- ・24時間シートの更新は、状態変化に合わせての更新が出来ず、1年に1回の更新に留まったほか、ケアプランと24時間シートの内容に齟齬が生じることもあった。

- ・タブレットによる記録システムに関して、各職種との情報共有が図れたとともに、以前よりも担当職員からの気付きや個別対応についての情報発信が積極的に行われるようになった。

- ・終末期の入居者には、医師や看護師より、入居者や家族が納得されるまで説明を行ったうえで、家族の身体面、精神面の負担軽減のために、家族とのコミュニケーションを密にとった。

- ・内服薬一覧表を定期的に見直し、事故防止に努めた。
- ・褥瘡ケアに関して、日々の状態観察や予防対策を実施したため、褥瘡ゼロを達成した。
- ・感染症に関して、職員への説明を個別に実施した結果、入居者、職員に発症者はなし。
- ・防災、防犯訓練時、職員不足から参加職員が限られ、特に現場職員の参加が難しかった。
- ・新型コロナウイルス対策のため、面会制限を実施。面会希望持はタブレットを使用した。
- ・状態低下時や看取り期には居室内のレイアウトを変更し、家族の付き添いや宿泊が出来るよう環境整備を行った。
- ・エアコンの汚れや不調、カーペットの汚れに関して家族より指摘を受け、エアコンの清掃

を少しずつではあるが実施した。

3. 人材育成と確保

・専門性向上に関しては、個々の職員任せとなったため、職員間で知識等に差が生じてしまった。内部研修も参加率が芳しくなかった。

・法人内のケアスクールの受講者はいなかったが、資格取得支援のため勤務調整を行った。

4. 地域貢献

・ふくおかライフレスキューサポーターとして、1件の支援に関わった。

【恵昭園デイサービスセンター】

1. 健全経営

・年間で予防9名、介護5名の新規利用者確保が出来たほか、急な延長利用にも迅速かつ柔軟に対応し、家族の負担軽減に努めた。一方で、平均利用者は目標としていた23名には届かず、19.5名に留まった。新型コロナウイルスの影響にて、受け入れが困難な時期もあった。

・短期入所相談員等と情報共有を行い、通所介護から短期入所の利用に繋がる方も増えた。

・総合事業対象者である介護予防利用者の利用依頼が増えたが、元々の報酬単価が低いことと、稼働率の低迷により収入減となった。

2. サービスの質の向上

・リハビリ職員同行にて自宅訪問を行い。在宅での身体状況の把握に努めたが、ケアマネージャーと情報共有やケアの統一が図れない場面もあった。

・毎月のモニタリングにて、家族や利用者の満足度を把握すると共に、自宅での状況を知らせて頂いた際は、その内容を元に通所会議を実施、ケアの統一を図った。

・新型コロナウイルス対策として、職員間で対応を検討、可能な限り感染対策を実施した。

・職員の公休で加算が取れない際には、ケアマネージャーに報告、適正な請求を行った。

・老朽化に伴う改修箇所が複数箇所あり、優先順位を決め改修を実施した。

・各職員、出勤時の清掃担当箇所を決め、環境美化に努めた。

3. 人材育成と確保

・日々のコミュニケーションの中で、就労意欲等に関して聞き取りを行ったほか、個々人にあった仕事の取り組み方を指導したものの、事業所全体での意識統一は不十分であった。

・研修への積極的な参加を促し、キャリアアップや知識取得に繋がった。一方で、職員体制が整わない時期もあり、身体的、精神的に疲労している職員も見受けられた。

4. 地域貢献

・地域での勉強会に参加し、他事業所や地域の方との交流や情報共有を行った。

[防災・防犯対策]

① 併設施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）

1回目・・・令和元年12月5日（木）（昼間想定訓練）

2回目・・・令和2年3月18日（木）（夜間想定訓練）

② 地域合同防災訓練

令和元年6月30日（日）（上須恵地区風水害防災訓練）

③ 防災設備点検

- 1 回目 令和元年 6 月 4 日 (火) (粕屋南部消防署報告)
 2 回目 令和元年 12 月 6 日 (金) (粕屋南部消防署報告)

④ 防火対象物点検・令和元年 6 月 4 日 (火) (粕屋南部消防署報告)

⑤ 受電設備点検

毎月 1 回の点検及び年 1 回の法令点検を実施。

⑥ 災害に対する防災訓練 (避難・通報・非常時物品準備訓練)

令和 2 年 3 月 6 日 (金) (土砂災害想定)

⑦ 不審者対策研修 (講義)

令和 2 年 3 月 6 日 (金)

[実績]

① 入・退所 (恵昭園)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	2	1	1	0	1	2	2	0	0	2	0	2	13
退所者数	2	1	0	1	2	3	0	0	2	2	0	1	14
月末在所数	44	43	44	42	40	42	42	44	42	40	41	41	
稼働率(%)	87.9	86.6	88.2	85	81	84.3	87.5	88	83.6	80.6	82	82.4	79.16

② 短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者(延)	258	279	259	257	255	205	218	203	209	230	204	183	2760
平均数	8.6	9.0	8.6	8.3	8.2	6.8	7.0	6.8	6.7	7.4	7.0	5.9	7.9
稼働率(%)	55	56	54	52	51	43	44	42	42	46	46	37	44.62

③ 入・退所 (アネックス)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	6
退所者数	0	1	0	0	0	1	1	0	0	2	2	0	7
月末在所数	17	17	17	16	16	16	16	16	16	15	15	16	
稼働率(%)	85	85	85	85	80.3	83.8	81.5	80	80	72.6	76.2	76.5	80.91

④ 通所介護

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用(延)	420	434	427	462	445	418	430	388	418	411	380	374
平均(日)	19.5	19.4	20.7	20.2	20.5	19.6	19.4	18.5	19.4	18.7	18.8	18.6

平均 要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	2.5	2.4	2.4	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	2.3	2.4

【養護老人ホーム双葉】

1. 健全経営

・太宰府市へは毎月、各措置元については、職員の異動時期である6月頃と年始に挨拶回りを実施、情報交換を行った。

・措置解除に伴い退所となった元利用者について、NPO法人と連携し状況確認を行った。また、介護が必要となった利用者の法人内の別施設へ入所ができるよう進めたものの、当年度は1名のみ特養入所に留まった。

2. サービスの質の向上

・嘱託医変更に伴い、緊急時の対応について見直しや検討を実施したが、マニュアルの更新までは至っていない。

・太宰府市社協主催の福祉祭りへ作品を出展。利用者より、一年かけて作品作りを行いたいとの希望が聞かれた。

・個別の買物支援を実施した。

・利用者状況に関して職員間での情報共有が出来ておらず、家族への報告が遅延、謝罪した。

・福祉サービス第三者評価を受審し、指摘された書式(入所時の説明事項確認欄の作成)はすぐに変更、睡眠薬の副作用の周知徹底の必要性に関しては、内部研修にて周知を図った。

・4月下旬から5月上旬にかけて、7名の利用者が感染性胃腸炎に罹患するも、感染防止委員会を開き、マニュアルに沿った対応を行うことが出来た。

・1月に食事に関する嗜好調査を実施。ご飯が冷めているとの指摘があったため、提供する茶碗を温め、ご飯の冷えを抑えるようにした。

・緊急一時保護に関しては、各市町村や警察等と連携し、年間6名の受け入れを行った。措置入所には繋がらなかったが、次の行き先が決まるまでの間、安心して生活して頂けるよう、行政等と連携をとり、心のケアに努めた。

3. 人材育成と確保

・内部研修の出席率が低下しつつあるが、法人研修への参加は継続できた。

・厨房職員のみプリセプター制度を導入、効果が出ている。

・養護部会セミナーに参加し、同じ養護老人ホームで働く職員間で悩みや問題点についての情報交換が出来た。

4. 地域貢献

・例年通り、地域清掃等を実施。地域住民への出前講座は、地域からの依頼がなく、施設としても人員不足から、積極的な働きかけは行わなかった。

・退所し他の施設に移動した元利用者に対して、ライフレスキュー事業から電気製品の寄贈を受けた。

・年間を通して5回、大雨に伴う避難住民を受け入れた。

【訪問介護事業所 ホームヘルプステーション ふたば】

1. 健全経営

・目標としていた、利用登録者数は達成できなかったが、年間延利用回数は目標値を上回ることができた。

2. サービスの質の向上

・軽微なプラン変更に伴う手順書の更新が不十分であった。

3. 人材育成と確保

・個別研修計画の進捗状況を年度途中で把握することが出来なかった。

4. 地域貢献

・地域ケア会議に参加し情報を共有、在宅での生活が継続できるよう支援を行った。

[実績]

①入・退所（双葉）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	5
退所者数	1	1	0	0	3	1	1	4	0	2	3	0	16
月初在所者数	116	115	116	116	116	114	113	112	108	109	108	106	1349
稼働率(%)	77.3	76.7	77.3	77.3	77.3	76	75.3	74.7	72	72.7	72	70.7	74.94

②利用状況（ヘルパーステーション ふたば）

・登録人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(支援)	30	30	28	27	25	28	27	27	27	28	31	30	338
	(介護)	53	51	52	50	50	54	54	51	52	52	50	46	615
	(総合事業)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	(計)	84	82	81	78	76	83	82	79	80	81	82	77	965

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	予防(総合)	150	161	137	152	135	145	147	130	133	138	144	173	1745
	(生活)	219	191	171	195	181	201	201	187	167	160	144	156	2,173
	(身体)	172	166	154	159	145	139	142	148	158	144	148	162	1,837
	(身体+生活)	194	191	183	191	189	176	182	147	140	127	112	114	1,946
	(計)	735	709	645	697	650	661	672	612	598	569	548	605	7,701

【特別養護老人ホームなの国】

1. 健全経営

・年間実績数は目標値を若干数上回ったが、上半期は入院者が多く下半期は比較的安定した稼働率で推移し、他事業所や医療機関等との関係構築の成果も出た。緊急性の高いケースに関しては、早急な入居案内を実施した。

・早期の入居希望者へ、併設の短期入所利用を提案するも、空室がなく利用実績はほぼなし。

・電力会社及びガス会社との価格調整を実施。また、冷暖房機器の使用温度並びに使用頻度について、職員へ注意喚起を行い、光熱水費は前年度比 100 万円削減。物品等の業者についても定期的に見直しや品物の再選定を実施することで、支出削減が出来た。

・職員間の情報共有を密にすることで、過誤請求の件数を減らすことが出来た。

2. サービスの質の向上

・フェースシートの様式を入居者主体の様式へ変更し、現在の入居者自身の能力の重視や、入居前の習慣や趣向を継続できるようなものとした。

・各行事への参加を促す一方で、入居者への押し付けとならないよう配慮を実施。ユニット毎のケアへのアプローチは出来なかった。

・感染症(インフルエンザ)は 2 名の罹患者が出るも、迅速な対応を行った結果、医師からも施設の対応を評価頂いた。

・褥瘡発生件数は 7 件。乾燥による皮膚トラブルへの対処が不足していた。

・ユニットの評価を定期的実施(2~3 か月に 1 度)、基準が曖昧となっている部分があった。

3. 人材育成と確保

・プリセプター制度がしっかりと実施できていない部分があった。

4. 地域貢献

・西区ライフレスキュー事業事務局でもあったため、定期連絡会の開催や寄贈品の受け入れを実施。子ども食堂への食材運搬支援並びに食材提供を実施した。

【ショートステイなの国】

1. 健全育成

・稼働率は、月の平均目標値 16.0 人としていた所、平均 17.5 人(109.3%)の稼働であった。また、短期入所利用者で、特養への入所待機として長期利用されている方が 11 名で、状況に応じて、法人内の別サービスの紹介も実施した。

2. サービスの質の向上

・新型コロナウイルスによる長期利用者の家族へは随時、状況報告等の連絡を行った。

・福祉用具はデータ化することで情報を共有化、また、3 か月に 1 度点検を実施した。

3. 人材育成と確保

・内部研修や外部研修を通じて、職員の意識改革や専門性の向上に努めることができたが、プリセプター制度が定着していないという課題もある。

4. 地域貢献

・ライフレスキュー事業では、連絡会の開催、寄贈品の運搬、提供窓口を担った。

【デイサービスセンターなのくに】

1. 健全経営

・前年度、月平均利用者は 13.5 名であったが、令和元年度は、14.9 名であった。

・月初めに提出する実績提供表と併せて、月間予定表や前月の利用者写真等を配布したことで、新たな居宅介護支援事業所の開拓に繋がった。また、事前に体験利用の申し込みがあった際は、ケアマネージャーや本人、家族より情報を収集し、体験利用日にその方のニーズに沿っ

た過ごし方が出来るよう、行事等の変更を行った。

2. サービスの質の向上

・機能訓練指導員を中心とし、個々の能力の維持や向上のための個別対応運動を増やしたほか、外出や工作、おやつ作り等の行事の充実を行った。また、文化祭への出店や販売を継続したことで、それらを目的とした利用者の獲得が出来た。

・体力的または金銭的な理由により短時間での利用を希望された方の受け入れも積極的に実施したほか、振替利用にも柔軟に実施した。

3. 人材育成と確保

・施設内の研修に参加したほか、施設外で開催されている「西 367 カフェ」や「西ブロックデイサービス会議」、「福岡市老人福祉施設協議会主催デイサービス研修」等に参加した。

4. 地域貢献

・11月に開催された壱岐校区の文化祭に参加し、利用者が作った作品を販売したところ、完売。会場にデイサービスの看板を写真入りで設置し、宣伝活動を行った。

・十郎川河川清掃へ参加し、近隣住民との交流を図った。

・毎月、壱岐校区地域ケア会議に出席した。

【ヘルパーステーションなのくに】

1. 健全経営

・パート及び登録ヘルパーの雇用増により、新規利用者へのサービス提供が出来るようになったことで、結果として利用者増に繋がった。

2. サービスの質の向上

・定期訪問でのサービスがマンネリ化し、業務中心となってしまったことがあったため、訪問介護会議やカンファレンスを実施し、周知した。

3. 人材育成と確保

・外部研修への参加はスケジュール上困難であったが、事業所内の研修への参加に努めた。

4. 地域貢献

・地域貢献活動は、スケジュール上実施が困難であった。

【実績】

①入・退所（なの国）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居数	3	1	3	2	0	2	0	0	1	2	1	1	16
退居数	1	4	1	0	1	1	0	1	2	1	0	2	14
月末在所	71	74	76	76	77	79	76	75	75	78	77	76	910
稼働率(%)	88.5	89.2	92.8	94.1	95.2	97.3	97.9	93.8	94.4	94.5	95.3	96.4	94.1

②短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用（延）	512	555	506	526	533	519	544	545	535	540	524	560	6399
日平均数	17.1	17.9	16.9	17	17.2	17.3	17.5	18.2	17.3	17.4	18.1	18.1	17.5
稼働率(%)	85.3	89.5	84.3	84.8	86	86.5	87.7	90.8	86.3	87.1	90.3	90.3	87.4

③ デイサービスセンター

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用(延)	355	371	378	230	349	358	382	409	395	385	363	377
平均(日)	14.7	14.7	15.9	14.7	13.6	14.7	14.6	16	15.5	15	14.6	14.7

平均 要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	2	1.9	1.9	1.9	1.9	2	2.1	2.3	2.2	2.1	2.1	2.1	2.042

④ ヘルパーステーション

・登録者人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(支援)	26	25	23	29	29	27	27	27	27	26	24	23	313
	(介護)	22	23	24	25	28	30	30	30	30	28	30	31	331
	(計)	48	48	47	54	57	57	57	57	57	54	54	54	644

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	(生活)	107	128	140	148	150	158	174	161	174	162	149	161	1,812
	(身体)	229	248	236	233	254	271	269	319	333	327	275	395	3,389
	身体・生活	6	9	16	32	42	35	32	39	41	56	49	45	402
	(予防)	152	145	137	163	172	159	168	170	169	157	151	149	1,892
	(計)	494	530	529	576	618	623	643	689	717	702	624	750	7,495

【介護老人保健施設若杉の里】

1. 健全経営

- ・業務スケジュールを調整し、空床期間の短縮に努めた。
- ・糟屋郡域を中心とし、広報担当職員が医療機関や居宅支援事業所へ広報活動を行った。

2. サービスの質の向上

- ・状態悪化の段階で施設医師の見解を確認後、家族へインフォームドコンセントを実施。家族へ説明した内容や意向については、詳細に記録に残し、チーム内で共有した。また、ターミナル期は可能な限り個室対応とし、付き添われる家族のためのソファやベッドを設置した。
- ・逝去による退所の際は、湯灌を実施し、出棺時の見送りは可能な限り担当フロア職員が立ち会えるように努めた。
- ・季節感のある食事メニューの提供、利用者の好みに即した行事食の提供に努めた。

3. 人材育成と確保

- ・職員数が限られる中であったが、可能な限りOJTを実施。特に新入職員については、指導職員と役職職員が協同し、指導を行った。
- ・介護福祉士資格取得のための、ケアスクールを受講した職員へは、講習費の助成や勤務時間の調整等を実施した。

4. 地域貢献

- ・地域包括支援センター主催のセミナーや会議、上須恵ミニデイサービスへ参加を行った。ミニデイサービスでは、予防体操やレクリエーションを通して、地域住民との繋がりを図った。
- ・町社協主催の中学生福祉体験サマースクールでは、高齢者疑似体験、ミキサー食や刻み食の試食、参加する子ども達に関心を持てるようなプログラムを実施した。

[防災対策]

① 併設施設との合同訓練（避難・消火・通報訓練）を2回実施した。

- 1回目 令和元年 6月29日（土）（昼間想定訓練）
- 2回目 令和2年 1月25日（土）（夜間想定訓練）

② 防災設備点検

- 1回目 令和元年 6月3日（月）（粕屋南部消防署報告）
- 2回目 令和元年 12月5日（木）（粕屋南部消防署報告）

③ 防火対象物点検・ 令和元年 6月3日（月）（粕屋南部消防署報告）

④ 防災訓練

- 土砂災害 令和元年 8月31日
- 風水害 令和2年 2月29日

⑥ 受電設備点検

- 毎月1回の点検及び年1回の法令点検を実施。

[実績]

① 退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者	4	3	2	3	2	2	2	2	4	0	4	3	31
短期入所者	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
長期退所者	3	3	3	5	3	0	2	3	3	3	3	2	33
短期退所者	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
月末在籍者	83	83	82	80	79	81	81	80	81	78	79	80	
稼働率(%)	83.3	82.5	81.3	80.5	79.4	80.4	81.3	79.7	80.4	80.1	78.6	79.8	80.6

② 月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	14	14	14	15	15	13	14	14	15	13	12	13
要介護2	12	12	13	12	11	12	12	10	12	12	13	13
要介護3	16	17	16	16	17	19	19	21	20	20	22	23
要介護4	24	25	24	21	20	19	16	14	13	13	13	12
要介護5	17	15	15	16	16	18	20	21	21	20	19	19
合計	83	83	82	80	79	81	81	80	81	78	79	80
平均要介護度	3.22	3.18	3.16	3.14	3.14	3.21	3.2	3.23	3.16	3.19	3.18	3.14

公益事業

【居宅介護事業所 ケアプランセンターふたば】

1. 健全経営

・定期的に地域包括支援センターへPRを実施、医療機関に関しては利用者支援を通してPRを実施することができたが、下半期の利用者数が伸びず、目標であった月平均登録者数105名には届かなかった。

2. サービスの質の向上

・併設施設と地域自治会共催の夏祭り、パットゴルフ大会や福祉祭りへ参加を行った。

3. 人材育成と確保

・特定事業所加算算定にあたり、勉強会を開催し資質向上に努めた。
・職員会で教え合う環境が構築できつつあり、困難事例にも前向きに対応、解決が出来た。
・医師会主催の研修や、地域包括支援センターで開催されている情報交換会へ出席し、情報収集に努めた。

4. 地域貢献

・ペットボトルキャップの回収や使用済み切手の寄付活動を行った。

・令和元年度利用者登録者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護5	22	25	23	23	22	23	22	22	22	24	20	20	268
要介護4	30	29	27	27	24	25	26	24	23	20	21	21	297
要介護3	14	14	14	15	18	17	18	16	15	16	16	15	188
要介護2	9	8	8	8	6	6	7	6	6	6	6	6	82
要介護1	6	5	4	4	4	4	3	3	3	3	5	5	49
要介護(合計)	81	81	76	77	74	75	76	71	69	69	68	67	884
要支援2	13	12	13	13	13	13	12	12	12	12	11	11	147
要支援1	22	21	21	20	20	19	19	17	17	16	16	16	224
要支援(合計)	35	33	34	33	33	32	31	29	29	28	27	27	371

【居宅介護事業所 ケアプランセンターなのくに】

1. 健全経営

・介護支援専門員が2名体制となり、業務の振り分けや担当者の引継ぎがスムーズに実施できたことにより、登録者増に繋がった。また、入退院時の情報提供や情報の受け取りを確実にを行い、病院から在宅への移行が滞らないよう連携を図った。

2. サービスの質の向上

・担当件数が増えたことで、アセスメントが浅くなることがあった。
・サービス洗濯時は、本人や家族の意向を最優先し、パンフレットや実際に利用している利用者の様子を伝える等イメージしやすい説明に努めた。

3. 人材育成と確保

・ケアマネ更新研修にて資格を更新した。

4. 地域貢献

・圏域包括との関係性を強化したことで、担当依頼も増えた。また、地域ケアを考える会や地域行事への参加を通して、関係性の維持に努めた。

・令和元年度利用者登録者数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4
要介護	32	33	37	38	38	41	45	44	48	49	47	47
登録者（計）	35	36	39	40	40	43	47	46	50	51	50	51

【サービス付き高齢者向け住宅 まほろばの里なの国】

1. 健全経営

・入居者の心身機能低下による退去はあるが、退去者数としては例年と比較し少なく、次の待機者についても速やかに受け入れを行ったため、平均稼働率は104%を維持できたほか、入居問い合わせも安定した相談件数で、待機者は常時25名以上を確保できた。

・日々の健康管理を徹底することで、体調不良の早期発見、早期受診が出来たほか、体操や手芸、習字等ADLの維持に向けた取り組みを積極的に実施した。

2. サービスの質の向上

・義務化された運営懇談会は滞りなく実施。初めて開催した家族合同懇談会は好評であった。

・入居者個々の、かかりつけ医や訪問看護、他事業所との連携強化に努めた。また、服薬管理に関しては、オプションサービスから居宅療養管理指導に切り替え、調剤薬局を一本化することで、業務の効率化と利用者の金銭的負担軽減に繋がった。

・体操や手芸、おやつ作りや映画上映は、参加者の意見を元に内容の充実を図った。また、令和元年度より、行事への参加者増のため、シニア職員をマスターに喫茶を新たに導入した。

3. 人材育成と確保

・市事業者研修、有料老人ホーム協会等の外部研修を受講した。

4. 地域貢献

・入居者へ地域行事参加のアナウンスを実施。ただし参加者は限定されていた。

・地域で行われた文化祭へ、入居者が作成した作品を出品、販売し、その売り上げを校区社協の活動費として寄付を行った。

・公民館や集会所で、住民向けに制度理解に関する講座(3回)と認知症・介護技術講座(7回)、防災・緊急時対応(2回)の講座を行った。

[入退居状況]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
退居者数	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2	1	1	7
月末在居者	44	42	43	42	42	41	43	42	41	39	40	40	499
稼働率(%)	97.3	100	100	99.3	98.5	100	99.2	100	100	99.8	97.1	98.7	

[月別要介護度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	8	116
要支援1	7	7	7	7	9	9	10	10	10	10	9	9	104
要支援2	7	7	6	6	4	4	4	2	2	1	2	1	46
要介護1	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
要介護2	9	8	8	8	9	8	8	9	8	8	8	9	100
要介護3	2	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	35
要介護4	1	0	1	1	1	2	1	1	2	2	3	4	19
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均要介護度	1.8	1.8	1.9	1.85	1.86	1.95	1.85	1.86	1.95	1.95	2	2.09	

【なの国ケアスクール】

1. 事業の安定的継続
2. 研修内容の充実
3. 地域貢献の推進
4. 人材育成と確保

・「開校スケジュール」

- 実施場所 福岡県福岡市西区拾六町団地2番18号（特別養護老人ホームなの国内）
- 開講予定 平成31年3月 介護職員初任者研修（通信課程） 定員20名
令和元年6月 介護福祉士実務者研修（通信課程） 定員20名

1. 事業の安定的継続

- ・福岡市や糸島市を中心に広報活動を行い、28名が修了した（介護職員初任者研修7名、介護福祉士実務者研修21名）。
- ・受講料の負担軽減として、教育訓練給付金（7名）、介護福祉士修学資金貸付制度（15名）を活用し、受講生の支援を行った。

2. 研修内容の充実

- ・受講生のアンケートや聞き取り調査をもとに、講義内容や配布資料の見直し、講義や演習の質の向上に努めた。DVD等視覚教材は最新のものを追加導入した。
- ・介護福祉士受験対策では、Webシステムの活用や、関連雑誌の予想問題等の提供を行った。

3. 地域貢献の推進

- ・高校や地域住民への広報活動を実施するも受講希望者はいなかったが、病気によって生活困窮の状態にあった方が、初任者研修を受け介護従事者となった事例があった。

4. 人材育成と人材確保

- ・法人職員6名（介護職員初任者研修2名、介護福祉士実務者研修4名）が資格取得。
- ・ケアスクール講師として従事できる法人職員を2名増やすことが出来た。

【恵徳会ライフレスキュー事業】

1. サポーターの配置並びに総合生活相談活動

- ・恵徳会が主体となって問題解決にあたるケースはなかったが、事務局が担当したケースに同行し、問題解決に努めた。

2. 経済的援助

- ・随時、家具や家電を収集し施設で保管を行い、要請時に物品のリユースに対応した。

3. 連絡会、研修会への参加

- ・糟屋郡地区、福岡市でそれぞれ定例開催されている連絡会、事例検討会に参加し、支援の流れや情報の収集、共有を行った。

- ・サポーター養成研修や相談援助技術研修会へ参加した。